

6年生

「自分事」として考え 対話的で深い学びのある授業を目指して

1 具体的な実践

(1) 主 題 感動、畏敬の念 D-1(21)

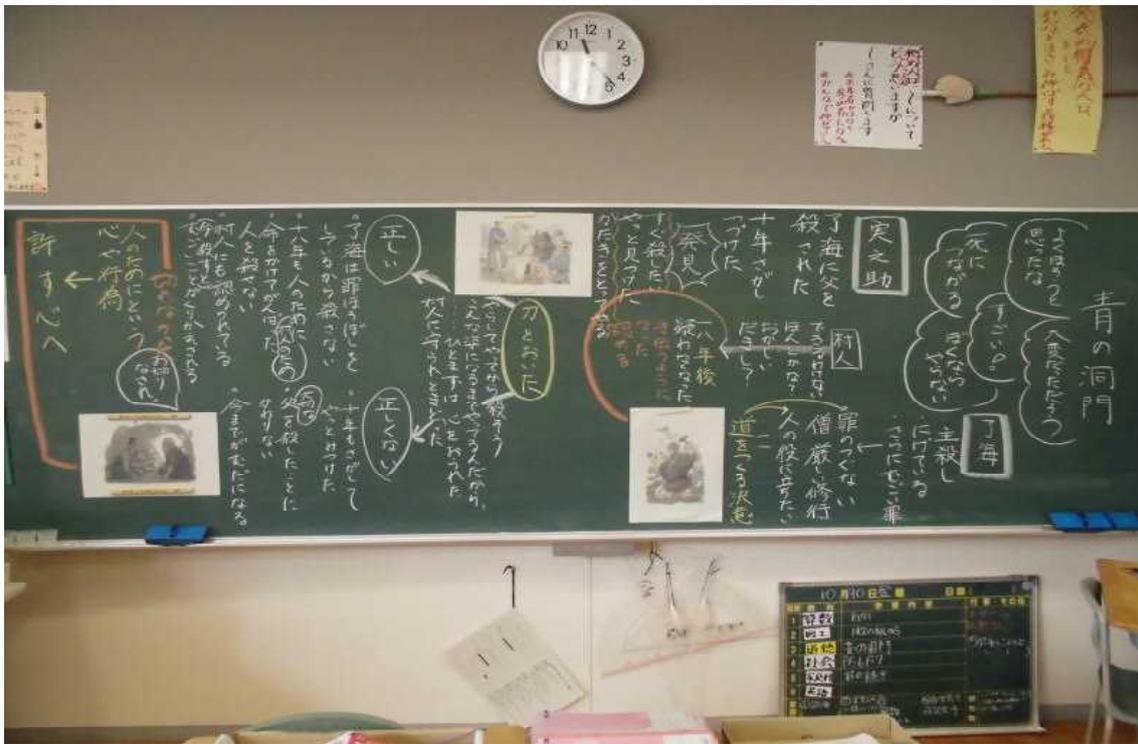
(2) 教 材 青の洞門 (小学生の道徳)

(3) ねらい 了海に対する実之助の心の変容を考える活動を通して、美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念を大切にす道徳的心情を育む。

(4) 学習の流れ

主 な 学 習 活 動	児 童 の 反 応
1 「青の洞門」の写真を見て、思ったことを発表する。	・すごい。これを人の手で掘ったのは信じられない。 ・時間がかかる。大変な仕事。 ・一人でやったのが、すごすぎる。
2 教材の前半を読んで、了海と実之助の背景や関係、前半のあらすじの説明を聞く。	
3 了海にやっと会えた実之助の思いについて考える。	・長いこと探してきたかがあった。やっと見つけた。 ・必ず仇をとる。やっと仇がとれる。憎い。 ・なんというみすばらしい姿だ。
4 (教材の後半を読んで)了海の姿を見て、刀をおいたときの実之助の思いについて考える。	・完成するまでまってやろう。 ・仇をとれない。 ・了海のはしていることは、すごい。 ・他人のためにここまでする人を殺せない。殺しても気持ちは晴れない。
5 実之助の判断は正しかったか、話し合う。	【正しい】 ・了海はもう十分罪を償った。 ・喜びと驚きや感激が、憎しみを超えた。 ・了海が罪がなくなったと思っていないから。 【正しくない】 ・過去は変えられない。 ・悲しみや憎しみは消えない。 ・家族が殺されたのに許せない。 ・了海の生き方に触れ、仇をとることはやめよう。 ・不思議と、仇をとる気持ちがなくなった。
6 了海に「お切りなされ」と言われた時、実之助は何を考えたか想像する。	・穴を掘り続けた了海はすごい。 ・憎しみの心を超えて許せる実之助もすごい。
7 二人の生き方について考える。	・「人のために」という気持をもち寛容な心で行動できる生き方を見習いたい。
8 ワークシートで振り返りをする。	

(板書)



(児童の感想)

- 人のために命がけでしている姿が、許す心につながったんだと思う。
- 了海は、もう悪人にはならないと思う。実之助は、かたきをうつことが全てではないと悟ったと思うので、これから先の人生はいい方向に向かうと思う。
- 実之助と了海は同じ時間を一緒に過ごしていたからこそ、最後に許す心へと変わっていったのだと思う。いやだとか嫌いでも、同じ時間を過ごすことでわかり合えることはあるんだと思った。

3 成果と課題

(成果)

- 命をかけて人のためにすることへの驚きだけではなく、実之助の心を動かしたものが人間にはあることや憎しみを超えてよりよく行きようとする生き方に感動していた。それだけに終わらずに、自分たちの中にもその強さがあることに触れることで、生活につなげようとする児童が多く見られた。
- めあてを提示することで、主体的に取り組めるよう児童に考えさせることができた。また、振り返りの時間を持つことで、自分事として向き合えるようになった。

(課題)

- 長文を扱う場合は、事前に読ませ、自分なりの課題を持たせることが大切。
- 児童がワークシートに書いたり、お互いの考えを伝え合ったり疑問を解決していく主体的になれる時間を十分に保障することが必要となる。